

平成25年台風18号豪雨に伴う大阪市における避難状況

○生田 英輔, 杉山 正晃, 陳 鼎超, 宮野 道雄
大阪市立大学

大阪市での避難勧告までの流れ

- 9月15日の23時17分に大雨・洪水警報が発令
- 16日午前4時30分には大和川の水位がはん濫注意水位である3.2m
- 午前5時30分には避難判断水位である3.4m
- 午前7時25分頃にははん濫危険水位である4.0m
- 午前8時30分には住之江通り、長居公園通り以南に避難勧告が発表
- 避難勧告発表以前から避難所開設準備として自治会や学校関係者に区役所から連絡が行われた

避難勧告伝達

呼びかけ手段	内容
エリアメール	対象地域 避難所
同報無線	避難所
車両	避難呼び掛け
Twitter	避難勧告 避難所

避難者数

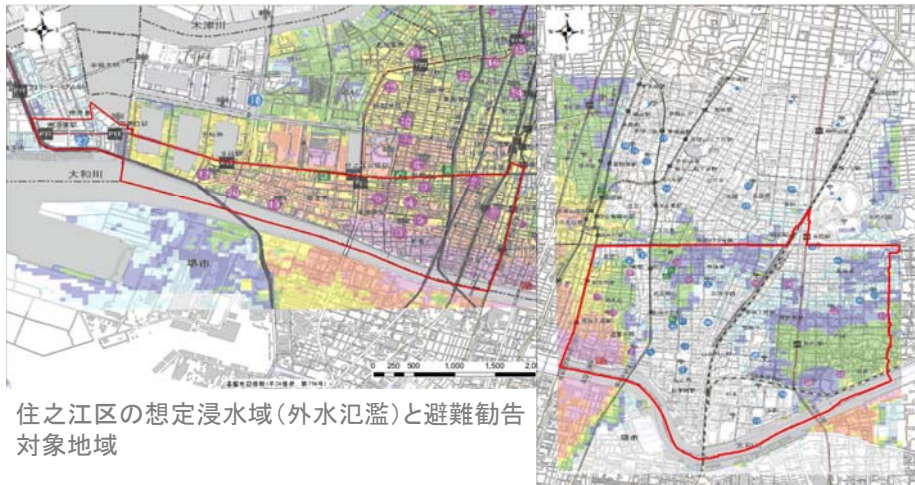
避難所	人数
安立小	30人未満
敷津浦小	30人未満
平林小	0
新北島小	30人未満
清江小	30人未満
港南造形高校	0
住吉商業	30人未満
住之江中	30人未満
新北島中	0
計	約100人

住之江区

区指定	避難所	人数	運営
	区役所	30人未満	区
	墨江小学校	50人未満	区
	三稜中学校	30人未満	学校/地域
	墨江丘中学校	50人未満	学校/地域
	南住吉小学校	50人未満	区
	山之内小学校	50人以上	区
	長居小学校	50人未満	区
	菊田北小学校	50人以上	区
	菊田南小学校	50人未満	学校/地域
	依羅小学校	50人以上	学校/地域
	阪南高校	30人未満	学校/地域
	南住吉大空小学校	30人未満	学校/地域
	計	約400人	

住吉区

避難勧告対象地域



住之江区の想定浸水域(外水氾濫)と避難勧告対象地域

住吉区の想定浸水域(外水氾濫)と避難勧告対象地域

住之江区の避難所開設状況



住之江区の収容避難所の分布

住之江区は既存市街地、工業地域、人口島から構成され、収容避難所は既存市街地に集中している。工業地域には就労者が多数いるものの避難所は少ない



住之江区で開設された避難所

住之江区では避難勧告区域内の収容避難場所11箇所のうち3階以上への避難が可能な9箇所を避難所として開設した。大和川に近接した避難所も見られる

住之江区の避難所開設状況



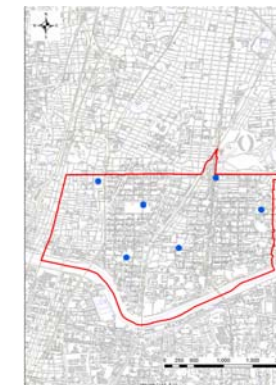
住之江区の津波避難施設

住之江区は南海トラフ巨大地震発生時の津波避難対象区であり、津波避難施設が確保されている。、台風18号では学校以外は避難所として指定されなかった

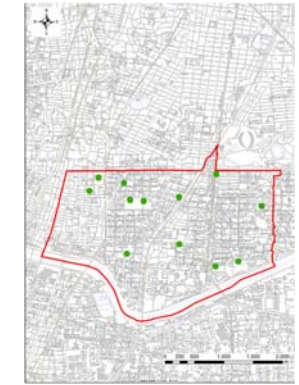
住吉区の避難所開設状況



収容避難所の分布



住吉区が開設した避難所



実際に開設された避難所

住吉区は住宅地が多く、避難所は均等に分布している。避難勧告地域内で収容避難所は29箇所存在する(左図)。住吉区では外水はん濫想定浸水域外の6箇所を避難所として開設した(中図)。区が開設していないものの、地域(自治会)の判断で開設された避難所が5箇所あった。また、区役所へも周辺住民が避難してきた。実際に避難が行われた避難所は計12箇所である(右図)

課題1

- 避難所の指定
 - 避難場所・避難所の名称が多岐にわたり、避難所の場所がわからない／住吉区では浸水域外の学校を避難所として開設→近隣の小学校へ避難できない／地域では柔軟な対応が行われていた
- ハザードマップ
 - － 各区・地域が独自に作成する防災マップ／全市的に作成する水害マップ／地震・津波マップ
- 避難勧告
 - － 避難準備情報、避難勧告、避難指示の位置づけが理解されていない／中高層のマンションから避難所への避難／同報無線が聞き取りにくい→自治会役員が自ら声かけ

課題2

- 避難体制
 - － 市危機管理室が避難勧告を発表し、区役所が実際の避難所を指定
- 区によって避難所開設の方針が異なる
- 避難所運営
 - － 「収容避難所開設訓練」の成果／天候が回復しても水位が下がらないうちは帰宅できない／食料等の備蓄・配布